

被災地の子どもの地域復興への参画意識を育てる「総合的な学習の時間」の取り組み
～復興に携わる支援者との交流を通して～

新地町立新地小学校 教諭 高野 道子

1 研究の趣旨

平成23年3月の東日本大震災により、新地町は海岸部が壊滅的な被害を受け、児童は今後の生活に不安を感じていた。「新地町が一日も早く復興してほしい」、これが児童たちの願いであった。震災後の事情により通常の授業の実施が難しいため、総合的な学習の時間を通して地域復興の現状をリアルタイムでとらえていく学習ができないかと考えた。復興を目指す町の動きを、支援活動に携わる人たちとの交流を通して調べ、まとめ、伝える学習を展開することで、沈みがちな児童の気持ちを支え、児童たちに地域復興への思いや希望を持たせたいと考えた。それが児童の地域参画意識を高めることに繋がると考え、本研究に取り組んだ。

町の復興に携わる人たちとの交流を通して復興の現状を調べ、まとめ、表現する活動を実践すれば、郷土愛が生まれ、地域復興への参画意識を持った子どもが育つであろう。

2 研究の概要

- ・単元名：「わたしたちの町～震災からの復興を目指して～」（50時間）
- ・研究期間：平成23年6月～平成24年1月
- ・研究対象：新地小学校第6学年児童33名

(1) 単元の構想

- 児童の実態や町の復旧・復興状況を踏まえた上で、単元を通じた学習が探究活動の形で進められるよう、約50時間の授業を「つかむ」段階・「追究する」段階・「表現する」段階・「交流する」段階の4つに区分し、活動が連続的・発展的に展開できるように計画した。

(2) 他教科との関連

- 各教科で、ねらいに照らして関連が図れる単元や学習内容を計画の中に位置づけた。
 - ・国語科「持続可能な社会への取り組みについて調べよう」（9時間） 実施期間：11月
 - ・社会科「わたしたちの願いを実現する社会」（9時間） 実施期間：11～12月

(3) 授業の実践

① 「つかむ」段階

- ・ グループ毎に活動内容を話し合い、調査内容や方法、まとめ方等について計画を立てた。

② 「追究する」段階

- ・ 町の支援活動に携わっている方（自衛隊員や役場職員）や被災者への取材、コンピュータを活用した調査活動により、被害の実態や復興の現状について情報を収集した。

③ 「表現する」段階

- ・ これまでの取材や調査活動で得た情報をもとに、発表のための原稿と資料を作成した。
- ・ 震災復興を呼びかけるポスターや支援者へのお礼のビデオレター等を制作した。
 - ※ 震災直後から、本校へ励ましのメッセージや支援物資がたくさん届いており、ビデオレターや手紙を通じて感謝の気持ちを伝えることにした。

④ 「交流する」段階

- ・ 第5学年児童と本校職員に学習の成果を発表した。その後、保護者と地域の方（役場職員も含む）を招いて発表会を開き、町の現状や復興への思いを伝えた。

※ ICTの活用と支援員の協力

本校は「地域雇用創造ICT絆プロジェクト（教育情報化事業）」推進校であるため、電子黒板、タブレットPC等が整備されている。調査活動や資料作成、ビデオレター制作等の際には、ICT活用を専任とする支援員の協力を得ながら取り組んだ。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 進行中の地域の復興状況を知ることは、震災後の不安を抱える児童が希望と安心を得る上で、この時期切実な課題であり、総合的な学習の時間の目標にも合致する内容と活動であったと考える。
- ② 児童の記録から、本活動を通して地域の発展を願う気持ちや自分の将来に希望を持つことができたと考えられる。自らが復興活動の内容を調べて発表し、伝えたことで、自分たちも地域復興の一端に関わっているという参画意識を高めたと考える。

(2) 今後の課題

本研究における総合的な学習の時間の学習計画は、さし迫った状況の中で作成された事情がある。今後は、町の復興に関しては進捗状況に沿った内容を、防災に関しては町の防災計画をもとに地域や学校の実態に即した内容を取り入れた計画を立案する必要がある。